

# 令和7年度 自己評価計画書 中間評価

石川県立盲学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析及び今後の取り組み
1 授業実践力の向上	他の教員の授業参観や、県教員総合研修センターの授業ビデオ等を活用し、自分の授業に活かす。	教務課	【努力指標】 他の教員の授業を参観し、授業改善の視点を持ち、自分の授業に活かすことに取り組む。	校内あるいは校外において、他の教員の授業を2回以上参観して授業改善の視点を持ち、自分の授業に活かした教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	D (47%)	校内あるいは校外において、他の教員の授業を2回以上参観した教員の割合は47%であり、1回参観した教員の割合は86%であった。後期に校内での研究授業を予定しているため、授業を参観するなど、計画的に取り組むよう働きかける。参観した教員の95%が、授業改善の視点を得て、自分の授業に活かしている。
2 専門性の向上とセンター的機能の充実	各教職員が、自身の経験に応じて自己研鑽を積み、視覚障害に関する専門性の向上を目指す。	進路・支援課	【成果指標】 各教職員がテーマを決めて研修等に取り組み、児童生徒への指導に関して、専門性向上を実感した。	専門性チェックシートを活用して研修等を行い、自分の専門性が向上したと感じた教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A (85%)	各自が選んだテーマで、専門性が向上したと回答した教職員の割合が85%である。校内外の研修会参加や書籍を読むなどの研修に取り組み、理解が深まったことや児童生徒への指導場面に活かしたことから専門性の向上を感じている。後期も同様に取り組むが、別のテーマでの研修を計画している教員が多い。
3 キャリア教育の推進	キャリア教育全体計画をもとに児童生徒のキャリア発達の課題を把握し、目標や教育内容・方法、各教科の関連等を考慮しながら実践し、キャリア教育の充実を図る。	進路・支援課	【成果指標】 教職員が、全体計画をもとに児童生徒それぞれの目標を意識した授業や行事を実践した。	全体計画をもとに、児童生徒それぞれの目標を意識した授業や行事を実践した教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C (63%)	実践できた教職員の割合は、63%にとどまった。実践が難しかった理由として、キャリア教育全体計画の領域別の育成したい力や、個々の児童生徒の目標を、教職員が十分に授業の中で意識していないことが挙げられた。日頃から目標を意識して実践できるよう今一度、個人の目標を各教職員に周知し、キャリア教育の考え方を伝え、個別の教育支援計画に反映させていくこととする。
			【成果指標】 児童生徒が、現時点での自分の強みや弱み、興味関心等について自己理解を深め、他者に発信することができた。	自分の強みや弱み、興味関心について他者に伝えることができた児童生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B (71%)	「自己理解できた」と回答した児童生徒は83%いたが、その上で「他者に発信できた」と答えた児童生徒は71%であった。また、「他者への発信に、取り組むことが難しかった」と答えた児童生徒は18%いることから、児童生徒には、話し合いなどの場面で教職員や他の児童生徒に伝える機会を設け、経験を増やしていく。
			【満足度指標】 保護者が、学校から提供した行事や進路に関する情報をきっかけとして家庭内で児童生徒と将来について話し合いができた。	進路行事や配付物、懇談等をきっかけとして児童生徒と将来について、家庭内で話し合いができた保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B (70%)	評価は、70%だが、保護者との懇談や保護者の質問から、進路選択のために必要な情報の提供が求められていることが分かった。今後、新規事業所の情報や、卒業後の生活で必要となるスキルや、福祉制度など、保護者のニーズに応じて進路だより等を通して発信していく。
	キャリア教育の視点を持って、舎生が他者と協力・協働して寄宿舎行事に参加し、寄宿舎生活の充実を図る。	寄宿舎	【満足度指標】 舎生が、他舎生と協力して寄宿舎行事の準備や運営をすることができるようになったと感じる。	他舎生と協力して寄宿舎行事の準備や運営をすることができたと答えた舎生が A 4人以上 B 3人 C 2人 D 1人以下	A (4人)	舎生の回答からは主体的に行動した様子や協力的な姿勢が見られ、集団の中で役割を果たす意識が高まっていると評価できる。今後も舎生が意見を出しやすい雰囲気づくりや、舎生への声かけを大切にしながら行事に取り組む、寄宿舎生活の充実を図っていく。
4 安全・安心な学校づくり	大規模災害を想定した危機管理体制の整備、校内研修の充実を図り、教職員の危機管理や防災への意識を高める。	指導課	【成果指標】 危機管理体制の整備や防災研修会などの取り組みを通して、自身の危機管理や防災に対する意識が向上した。	危機管理体制の整備や防災研修会の受講などを通して、危機管理や防災への意識が高まったとする教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満		2学期以降の取り組みとなるので、最終評価時に評価する。 (9/25 防災研修会予定)

